

経済指標ウォッチャー

米国GDP成長率(2020年7-9月期) 大幅上昇

個人消費の大幅な回復を受けて、過去最大のプラスを記録

GDP (国内総生産) とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加(減少)したのを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

2020年第3四半期GDPは過去最大の上昇率に

米国商務省が10月29日に発表した、2020年7-9月期の実質GDP(国内総生産)成長率(季節調整済み、速報値)は、前期比年率33.1%増と大幅に上昇し、事前予想の同32.0%増を上回る結果となりました(図表1)。

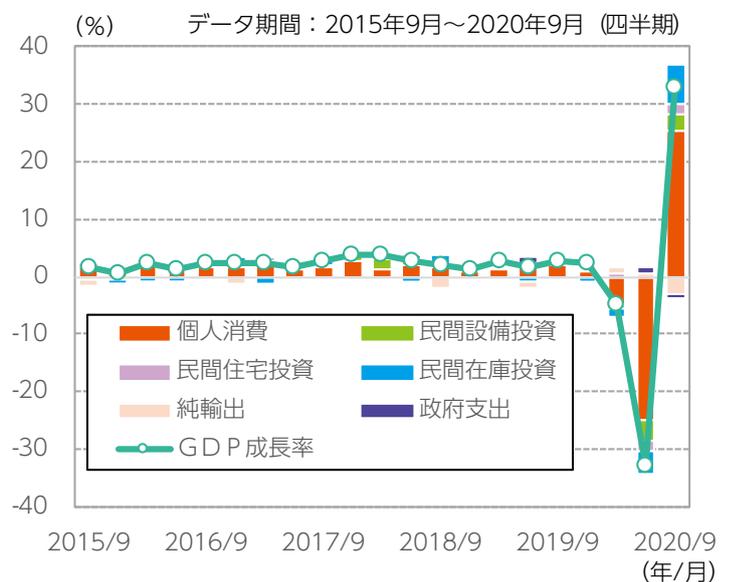
新型コロナウイルス感染拡大を受けたロックダウン(都市封鎖)等の影響から2020年4-6月期は統計開始以来最大のマイナスを記録しました。経済活動の再開を受けて個人消費や企業の生産活動が活発になったことから、2020年7-9月期は大幅に上昇し、統計開始以来最大のプラスを記録しました。

堅調な個人消費がGDP成長率を押し上げ

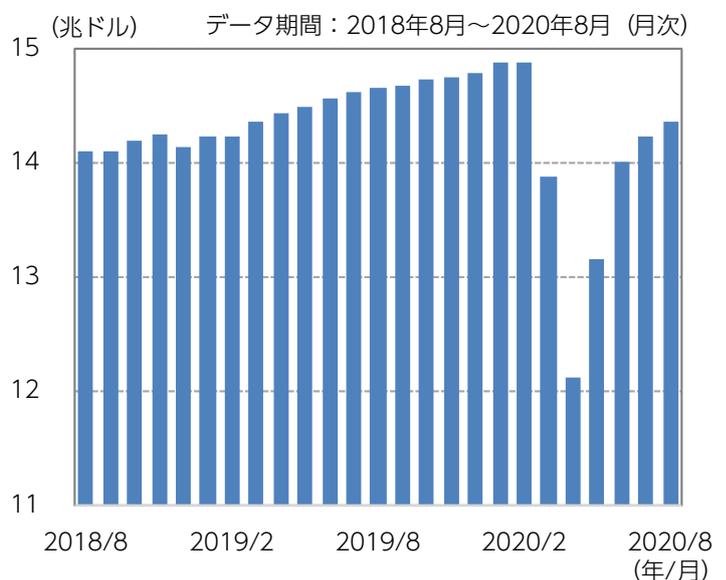
項目別寄与度では、ロックダウンや営業自粛が解除されたことを受けて経済活動が再開したことなどから、個人消費が大きく改善しました。GDPの約7割を占める個人消費は、2020年4月にはピーク時(1月)から20%弱、金額にして2兆7,680億ドル(約290兆円)減少しましたが、8月にはピーク時から5,100億ドル(約53兆円)少ない水準まで回復しています(図表2)。

9月の小売り売上高が市場予想を上回るなど、足元では個人の消費意欲は旺盛なものと考えられますが、7月末に多くの政府の支援策が期限切れとなっており、今後の個人消費に悪影響を及ぼすことも懸念されます。民主・共和両党による追加経済対策協議は難航していますが、個人消費が再び落ち込むことを防ぐためにも、追加の支援策等の早期成立が望まれます。

図表1：GDPは戦後最大のプラスを記録



図表2：個人消費支出は回復傾向に



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>